

福祉製品販売イベントの報告

CSL活動を通じて得た経験と今後についての提案

令和5年10月18日 於 品川区立障害者総合支援施設ぐるっぼ

- 1.はじめに～CSLと地域社会とは～
- 2.二つの場所と幅広い客層
- 3.販売を終えて得た消費者と販売者の意見
- 4.それぞれのニーズへの対応と具体的な提案

はじめに

<CSL（コミュニティサービスラーニング）活動>とは？

大学の授業で学んだ知識や技術などの専門知識を活かし、地域社会のコミュニティをよくするためにボランティア活動などを実践しながら学ぶ学習のこと。

私たちが受けている「コミュニティサービスラーニング」の授業では、地域社会を構成している人々に気づくことが授業を通じた目標

**私たちは地域社会と障害者が連携・密着し、
共生する社会について考えるための活動を行っております。**

現在までの活動

8月26日

中延商店街での一角をお借りしての販売イベント

10月7日

大崎駅大崎ゲートウェイ「しながわ夢さん橋2023」での販売イベント

販売時の客層

●中延商店街での様子

- ・年配の方や同じ障害を持つ方・そのご家族が多くいらっしゃった
- ・革製品やクッキーの売れ行きが良かった

●しながわ夢さん橋での様子

- ・他店舗の出店もあり、10代～20代の若者や家族連れなど幅広い年齢層の方が商品を購入された

2回の販売活動を通してわかったこと

- ・ 売れ筋は以下の製品
 - ・ クッキー
 - ・ 革製品（小銭入れ、キーホルダー含む）
 - ・ ブックカバー
 - ・ コースター
 - ・ ヘアピン

など

- ・ 障害のある方が製作した商品だから・・・という理由で購入された方が散見した
- ・ 購入者の年齢層は30代以上が9割

消費者の声

「アメリカたわしに取っ手を付けたら腰が痛い人でも
洗いやすい」

「革製品のキーホルダーでカラフルな色が沢山あったが、
黒などシンプルな色があったら買いたい」

「一部布製品について、実際の商品の寸分を表示してくださる
と使用時のイメージがわかりやすい」

など

実際に販売して感じた意見

「ハロウィン等季節ごとの商品を実際に手に取ったり検討したお客様が多かった」

「スマホケースを布や革で作れたら実用的だと思った」

「商品を実際に活用する方の年齢が高いように感じられた。小さい子や親世代が手に取りやすい商品があればいいと思った」

「コーヒー味クッキーは自分でも食べてみたが、美味しかった。甘すぎず程よい苦み。苦みを売りにしてもいいかも。ただ、チョコレート味など子供にも好まれる味がもう少しあっても良いのでは」

など

販売イベントを通じて学生からの提案

- ・ 10代～20代が手に取りやすいアクセサリ製品の制作・販売
- ・ 付加価値の見直し。デザインなどの面で市販のものとの差別化
- ・ サンリオ(本社が品川区)などの人気ブランドとのコラボ企画
- ・ 親世代や中年層へのニーズをふまえた新しい製品の開発、既存製品の改良
- ・ クッキー以外のお菓子の製作、販売

提案の具体例

- ・キャンディなど(子供にもなじむお菓子)
- ・キャラクターコラボ製品(マグネット、ヘアゴム)
- ・革やストーン系のブレスレット
- ・押し花レジンのピアス
- ・スマホストラップ(スマホケースなど)
- ・革のブックカバー

など

